

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善

教科(国語)

	指導方法の課題分析 (学習における児童の実態等)	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 音読学習を家庭学習と併せて継続的に行うことで正確に読めるようになった。ひらがなは9割以上の児童が正しく書けるが、「は」「を」「へ」拗音、促音、長音がまだ正確に身に付いていない児童がいる。 発表の時や話し合う時の声の大きさがうまく調節できない児童がいる。 自分の思いや考えを分かりやすく表現することが苦手の児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章を書く機会を増やし、「は」「を」「へ」の使い方に慣れる。また、繰り返し見直しをしたり友達と読みあったりして意識を高める。 視写、聴写を取り入れ、短時間で正しく書く、正確に聞き取ることが定着させる。 「声のものさし」を掲示し、場面による声の大きさを意識させる。 話すことに慣れていくために、ペアやグループ、全体など意図的に人の前で話す機会を増やし、自分の思いや考えを伝えられるようにする。個人によって伝え方が異なる物語の授業などでは、ワークシートを活用し、思いや考えを互いに伝え合う時間を 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期以降、おすすめの本の紹介やしたことについての感想、自分の考えをノートやワークシートに書く活動を継続的に取り入れ、書くことの作業を日常化していく。 朝の会や、帰りの会などで楽しかったことや、経験したことなどを話したり聞いたりさせる。 学習と関連のある本を紹介したり、読み聞かせを行ったりして読書への関心をより高めていく。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 書くこと(漢字、作文、言語事項)の習得が不十分だった。 促音、拗音が正しく書き表せない児童がいる。 自分の思いや考えをすすんで書いたり、話したりできる子が増えてきている。 読書好きな児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的により日記や作文を書く機会を設け、作文の中で習った漢字を使うなど、文法などの言語事項を踏まえ、丁寧に指導していく。 ワークシートを活用して、自分の思いや考えを表現する時間、それを伝え合う時間を確保していく。 国語の授業を通して、様々なジャンルの本と触れ合う機会を増やす。 国語の教科書「ことばのたからばこ」等を活用し、語彙を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝の会のスピーチを継続して行う。 読書をする時間を確保し、読み聞かせなどを取り入れ、本を読む楽しさを味わわせるようにする。 今後も感想文を書く機会を増やすように心掛ける。 分からない言葉や漢字は辞書や国語の教科書で調べることを習慣化させる。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 読むことや書くことに意欲的な児童が多いが、既習の漢字をすすんで活用しようとせず正確に身に付いていない児童もいる。また、文字が枠の中に入れない児童、促音や拗音が正確に書き表せない児童がいる。 音読で、抑揚をつけながら上手に読むことはできるが、言葉の意味や文意を正しく理解していない児童がいる。 自分の思いを伝えることが苦手の児童がいる。 作文する際、書き出すまでに時間がかかったり、簡単にすませたりする傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字は、正しく、丁寧に書けているかのチェックをこまめに確認・指導する。ノートや作文など、文字を書かせる際に、習った漢字はしっかり書くように指導する。 音読させる活動は継続するとともに、児童に言葉の意味を尋ねたり、調べさせたりする活動もしっかりと時間を確保して行うようにする。また、主語と述語、内容の中心、段落相互の関係を意識させて読むように指導を続ける。 全体で発表する前に、まず、自分の考えをノートに書かせるようにする。そして、近くの児童と意見交換をさせて、意見を整理したり、自信を付けさせたりする時間をつくるようにする。 学習課題に対する解答を文章で書かせたり、学習感想を書く活動を多く取り入れることで、書き慣れさせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 語彙の習得のために、読書の時間を増やしたり、読み聞かせや、ブックトークなども取り入れたりする。 辞書を引く活動を日常的に取り入れる。 朝の会等で、スピーチを継続的に行う。 話し合いの活動を、計画的に取り入れる。 日記等、日頃から文章を書くことを積み重ねていく。
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の学習に意欲的に取り組む児童がいる一方、なかなか意欲をもてない児童も少なくない。 音読の学習を継続しているが、漢字の読みが定着していない児童も少なくないため、自信をもって音読できない児童もいる。 文章を正確に、深く読み取る力に個人差が大きい。 文章を書く際、内容は決まっても書き方が分からず、思いのままに書き進めている児童が見られる。 グループで協力して準備をし発表をする場合は意欲的に取り組むことができるが、普段の授業において、自分の考えを発表できる児童は多くない。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習で継続的に漢字に取り組むようにし、連動して授業で漢字の反復練習や漢字テストに繰り返し取り組む。また、習った漢字はすすんで使うように声をかけ、意識させる。 音読カードの取組を続けるとともに、読み聞かせや、音読発表会等を行う。 段落の中心や段落相互の関係を意識させ、言葉に注目して読むように指導を続ける。 自分の考えや感想をノートに書いて発表したり、聞いたりする活動を積み重ねていく。 発表の仕方や場を工夫し、全員が安心して自分の考えを表現できるようにしていく。 声を出して、自分の考えを発表する場を多くする。 5W1Hなど、話に必要なことを身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業を組み立てるときに、書いたり話したりする回数を増やすように計画する。 辞書を引く活動を日常的に取り入れる。 学校図書館の活用を図る。 小グループの話し合い活動を計画的に取り入れる。 組み立ててメモを活用し、確かめながら進めるとともに、児童同士が野外に読み合い、話し合う時間を作る。
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> 書くこと(漢字、作文、言語事項)の習得が不十分。 文章を正確に、深く読み取る力に個人差がある。 自分の言葉で伝えたいことを相手に分かるように書いたり、話したりすることは個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続的に漢字を活用する場を設けていく。漢字テストを繰り返し行っていく。 読む活動から、書く活動や話す活動へと発展させていくような指導計画を立てる。 普段から問いに対して、書いてから答えるなど、考えることと書くことを関わらせながら学習に取り組むよう指導していく。言語環境を整え、言語に対して興味や関心をもてるような環境をつくっていく。 児童同士の学び合いの場を計画的に設定し、読み取る力を高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字テストや宿題で細かく添削し、正確な形を意識させる。 言葉や漢字は辞書や国語の教科書で調べることを習慣化させる。 書く活動や話す活動を日常化し、注意すべき点を指導していく。
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の力や学年相応の語彙力の定着が不十分である。 読み手を意識し、構成や表現を工夫して文章を書く力が不十分である。 自分の意見をもったり、友達の意見を聞いて自分の考えを深めたりする児童はいるが、積極的に表現するに至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続的に漢字を活用する場を設けていく。漢字テストを繰り返し行っていく。 辞書を活用する機会を増やし、言葉の世界を広げられるような活動を工夫する。教材文の意味調べ、四字熟語・ことわざ・慣用語調べなどを継続的に行わせる。 書く能力を高めるために、特に「取材」、「選材」の段階と、「推敲」の段階を個人だけでなく複数で行わせる等の工夫をする。 自分の意見を持ち、それを伝えることができるよう、ペアや少人数グループによる話し合い活動を授業の中に確保していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字小テストと、漢字の書き取り等の繰り返し学習を徹底させる。 書く活動や話す活動を日常化し、注意すべき点を指導していく。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善

教科(社会)

	指導方法の課題分析 (学習における児童の実態等)	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの住む地域に関心を持ち、意欲的に調べようとする児童が多い。 地図や資料などの読み取りが十分ではない。さらに読み取ったことから考えることができる児童は少ない。 地図などに興味関心がある児童とそうでない児童の個人差が大きい。 多くの児童が、調べたことをまとめる作業を意欲的に行うが、仕上げるまで意欲が持続しない児童が目立つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な場所や事物、自分の生活と関係があることなどから、導入していき、興味関心を持続させる。 地図や資料から読み取る活動を多く取り入れ、資料活用能力の向上を図る。 資料の見方や資料から読み取れること、比べること、考えられることについての学習を重点的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間と関連させる。調べ学習をするための方法を確認したり、活動の流れを確認したりする等、指導を丁寧にしていく。 地図や社会に関する物を教室に常掲して関心を高めていく。
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器とインターネットを活用したり、外部講師を招いての授業を行ったりしたことで、上下水道やごみ等の身の回りの事象について関心を高めた児童が多くいた。 地図や資料などの読み取りが十分ではない。さらに読み取ったことから考えることができる児童は少ない。 必要な情報や、資料を読み取り、活用する力は個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書以外の資料を4年生の実態に合わせて使っていく。 ICT機器やインターネット、体験的活動から学んだことを生かして、知識の定着を図っていく。 表やグラフの読み取り方について確認し、学習のまとめをするときにそれらを用いて自分の考えを表現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> インターネットで調べ、表現する際には、自分の言葉に直すことを意識させる。 買い物袋の有料化など、実生活の変化などについて知らせ、学んだことの生活への活用を図ったり、実生活とのつながりについて意識させたりする。
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> 表やグラフから、特徴を読み取ることが難しい児童が2～3割いる。 学習感想で、学んだことを日常や自分たちの生活につなげて考えている児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> まとめノートで、表やグラフを使うようにする。自分で表やグラフを使うことで、資料活用能力を身に付けさせていく。 調べたことだけでなく考えたことを入れて表現させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元に関する発展的な調べ学習をさせ、表現を工夫してまとめさせる。 学習内容と日常生活が関わる話を提示し、児童に考えさせることで、学習したことを活用する習慣を育てていく。
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題に沿って調べ学習を進め、ねらいに沿ってまとめる力や資料を活用する能力が不十分な児童がいる。 基本的な用語や事象については知識・理解の不十分な児童が見られる。 記述式の問題に対して歴史的に、論理的に解答できる児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 調べる時間を確保して、資料を読み込むように促す。また、資料の様々な見方ができるように、スモールステップで課題を設定する。 各単元の終わりに、基本的な用語等を振り返る時間を設け、定着を図る。 各単元の終わりに、学習問題に対するまとめを自分の言葉でまとめさせ、基本的な知識の定着と思考力の向上を図ると共に、書くことに慣れさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料集やICT機器を活用して調べ学習の充実を図り、児童の関心を高める。 調べる順序やまとめ方を児童に選択させ、追究意欲を高める。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善

教科(算数)

	指導方法の課題分析 (学習における児童の実態等)	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・たし算やひき算について、指を使って数えなければならない児童がいる。とくにひき算が苦手な児童がいる。 ・文章題で、たし算なのかひき算なのか判別することが難しい児童がいる。また、違いを比べるひき算の問題が苦手な児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時の全体指導後の個別指導を充実させるために、より計画的な学力補充講師の活用を図っていく。 ・文章題に取り組む際、言葉に着目して、たし算なのかひき算なのかを確認する。また、分かっていることや知りたいことは何かを、下線を引いて確認する。理解に時間がかかる児童には、ブロック操作で増減を確実に理解させる。 ・自分で問題を作るなどの学習した内容を生かしていく活動を単元内で取り入れていく。 ・たし算・ひき算など日常的な内容は、学習終了後も計算カードを活用したり、家庭学習プリントを出したりして定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の理解度に合わせて複数の学習課題を用意しておく。 ・学習プリントを繰り返し行い、理解を確実にする。 ・休み時間や放課後において、理解の不十分な内容について補充していく。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・「時ごとと時間」の概念理解がなかなか進まない児童がいる。 ・量の感覚が身につけていない児童がいる。 ・繰り上がりのあるたし算や、繰り下がりのあるひき算の筆算ではやり方はよく理解しているが、見直しが足りずに誤答となる児童がいる。 ・学習の定着レベルの個人差が大きい。 ・文章題で、立式がまだ難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数の時間だけでなく、日常的に時刻や時間を使う、量を見積もるなど継続して指導を行っていく。 ・家庭学習や授業の初めの時間などに繰り上がり・繰り下がりの計算を継続的に取り組む。 ・自分の考えをまとめたり表現したりする学習活動を継続して取り入れていくようにし、また友達同士の学び合いの活動を計画的に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間や放課後を活用して、学習内容が定着していない児童については、繰り返し指導をしていく。 ・3クラス展開の授業で、個々のレベルに合わせて学習の理解・定着をすすめる。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの児童がかけ算九九の定着を図れているが、間違えの多い児童もいる。 ・場面を図や式にする課題を苦手とする児童が多い ・「時ごとと時間」「長さ」や「かさ」の内容の理解が不十分な児童が多い。 ・具体的な数量の感覚が十分でなく、実生活と結び付けて考えることがなかなかできない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・その単元に必要な基本的計算は、事前に徹底練習をしておく。その授業で学んだことを言語化してまとめ直すことで、整理して、定着しやすいようにする。 ・自力解決の時間を保証し、結果だけでなく、途中で励ましたり、個別に支援したりする。 ・児童同士の学び合い、教え合いの活動に重点をおく。 ・具体物を使って感覚を養うことを積み重ねていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算は宿題として継続的に取り組ませる。 ・学期末などに、既習事項をもう一度授業として復習していく。 ・自力解決で自分の考えをもち、学び合いで友達の考えを知り、自分の考えをさらに深めていけるような活動を計画的に取り入れる。 ・休み時間や放課後を活用して、学習した内容が定着していない児童について丁寧に指導していく。
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ・かけ算やわり算の筆算の学習では、習熟までに時間のかかる児童が多く、全体として定着が弱い。 ・基礎的・基本的な知識および技能について個人差が大きい。 ・文章題の立式等、思考力を必要とする課題が難しい児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の導入では、自力解決に取り組ませ、多様な考え方を互いに学び合いながら学習内容が習得できるよう指導していく。 ・基礎的・基本的な知識の習得について、繰り返し取り組み、定着を図る。 ・学習事項の理解やつまづきにつながるポイントを把握し、個別に対応したり、児童同士の学び合いを活用したりして、全員が到達できるようしていく。 ・具体物を使ったり提示したりして、視覚や感覚の面からも理解につなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理解を深め、様々な考え方に気付くようにするために、児童同士が教え合い学び合う場面を多く設定する。 ・休み時間や放課後を活用して、学習した内容が定着していない児童について丁寧に指導していく。
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項の習得が十分でなく、算数を苦手としている児童が見られる。 ・桁数が増えるなど複雑な計算になると正答率が下がる児童が多く見られる。 ・文章題の立式の際に数直線を書き、活用することが難しい児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算など基礎的・基本的な知識および技能の補充が必要な児童には、それに応じたドリルの学習を徹底させる。 ・基礎的・基本的な知識および技能が十分身に付いている児童には、数学的な思考力を深められるような課題を準備する。 ・課題をスモールステップで解決していけるような発問や教材の工夫を行い、数学的な考え方や見方を育てていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京ベーシック・ドリルやワークドリルを活用する。 ・発展的な問題を準備し、時間を有効に活用して取り組ませる。 ・休み時間や放課後を活用して、学習した内容が定着していない児童について個別に指導していく。
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項の習得が十分でなく、算数を苦手としている児童が見られる。 ・文章問題の意味を理解することが難しい児童が見られる。 ・小数や分数の計算を苦手とする児童がおり、文章題の立式後の計算処理でつまづいている。 ・数学的な思考力をさらに伸ばし、既習事項を活用できるようにすることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習グループを習熟の程度や児童の希望に応じて分け、より細やかな指導を行っていく。 ・計算などの基礎的な表現力を向上させるために、ドリルパークやプリント等を用いて繰り返し練習できるようにする。 ・「繰り返し計算ドリル」を活用していく。 ・基礎的な学習が十分身に付いている児童には、興味をもって数学的な思考力を深められるような課題を準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発展的な問題を準備し、時間を有効に活用して取り組ませる。 ・休み時間や放課後を活用して、学習した内容が定着していない児童には丁寧に繰り返し指導していく。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善

練馬区立橋戸小学校

教科(理科)

	指導方法の課題分析 (学習における児童の実態等)	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物や現象に興味をもって観察できたが、記録の仕方に丁寧さや詳細さに欠ける児童がいる。 ・観察や世話等の活動は行うが、思考して実験結果をまとめたり、ノートに自分の考えを記録したりすることにうまく取り組めていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・疑問や、「もっと見てみよう」などの意欲をもたせるために単元の導入を工夫したり、観察カードの工夫やしっかり書かせるための時間の確保をしたりする。 ・実験道具をそろえて、可能な限り各自が実験を経験できるようにするとともに、まとめ方や、考えの記録の形成評価を行い、書き方の工夫を全体で交流できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理科の学習内容に関連した道具やおもちゃを作り、それを交流することを通して、関心をもたせ理解を深める。
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ・植物の観察や、実験等に興味をもって意欲的に取り組める児童が多い。 ・実験結果から考察を導いたり、身の回りの事象に当てはめたりすることができていない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活体験等から実験につなげるようにする。 ・考察を行う際には、個人の考えを基に小グループで話し合う時間をとる。また、考察を書く時間をしっかりと確保し、書き方を全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書資料やタブレットなどの資料を活用し、発展的な調べ学習を行う。 ・おもちゃ作りなどの実感を伴う体験を取り入れる。
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことの意味はしているが、日常の経験と結びつけて考えることに個人差が見られた。 ・記述式の問題に対して、自分の考えを表現するときに、問題に正当なものではなかったり、考えをうまく表現できていなかったりする児童が見られる。 ・基本的な用語や事象への理解に欠ける児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験結果に誤差が出ることが多くなるので、事前実験や教材研究をしっかりと行う。 ・実験結果や考察をまとめる際、ペアやグループでの話し合い活動を取り入れたら、ポイントをおさえたりして自分の考えをしっかりと表現できるようにする。 ・練習問題を通して、基本的な用語等を振り返る時間を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活にも関連させられるような映像資料などを用意し、事象を結び付けて考えられるような時間を設ける。
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な用語や事象への理解が不十分な児童が多い。 ・記述式の問題に対して、自分の考えを表現することに苦手意識をもつ児童が見られる。 ・実験は楽しそうに取り組むが、テストの結果につながらなかつたり、日常生活に結びつけられなかつたりする児童が多く見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元の終わりに、基本的な用語等を振り返る時間を設け、定着を図る。 ・実験課題に対する予想や考察をさせるとき、個人で自分の考えを書かせた後、グループの話し合い活動を取り入れ、互いの考え方をより深め合えるようにする。 ・実験後、グループごとにまとめさせるなど、実験の目的と方法、結果を明確にできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の学習に関連した発展的な内容の図書資料やプリント、ビデオを用意し、紹介する。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善

練馬区立橋戸小学校

教科(生活)

	指導方法の課題分析 (学習における児童の実態等)	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 身近な教材をもとにした活動のため、興味関心をもちのびのびと活動していた。 様々な先生方との交流があり、学びが広がった。 記録カードや学習カードなど表面的な気付きで終わりがちであり、やや深まりが見られないことがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察のしかた(色、手ざわり、大きさなど)や、探検のめあてなどより細かく明示するなどして思考や気付きがより明確になるように指導していく。 クラス全体で、個々の気付きを伝え合う時間をとる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人々や自然との関わりがさらにひろがっていくように、季節ごとの校庭巡り、地域散策、身近な人々との交流活動を取り入れる。 図鑑などの本や動画を、意図的に学習に合わせて紹介するようにする。 タブレットパソコンなどICT機器を観察や記録に活用する。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 校外学習を多く取り入れ、児童が計画を立てて行うことができた。 自然との関わりに個人差が見られた。 観察カードの書き方に重点をおいて指導したため、様々な事柄に注目して書けるようになってきている。 話し合いに主体的に関われる児童と、受け身になってしまう児童がいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 校外学習や人と関わる学習については、今後も児童の計画をもとに調整しながらすすめていく。 動植物への興味・関心に個人差があるので、VTRや本も多く活用しながら、クラス全体で計画し、活動をすすめていくようにする。 少人数での話し合いの機会を多くとり、どの児童も自分の考えを伝えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域や自然との関わりあいを深められるように工夫しながら、いろいろな体験ができるようにしていく。 図鑑やインターネットによる調べ学習や学校の動植物の観察等を通して、気付いたことや分かったことを記録したり発表したりする経験を積む。 タブレットパソコンなどICT機器を観察や記録に活用する。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善

練馬区立橋戸小学校

教科(音楽)

	指導方法の課題分析 (学習における児童の実態等)	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・手遊び歌や、身体表現を多く取り入れることで、楽しく歌を歌うことができた。 ・授業の流れをパターン化し、リズム模倣や好きなものリズムリレーなどを学習の始めに必ず取り入れたことで、友達と関わり合いながら、拍の流れを意識することができるようになった。 ・指使いやタンギングがまだ苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽に合わせて体を動かしながら、歌ったり、鑑賞したりする活動を多く取り入れる。 ・歌詞の表す内容や、様子を思い浮かべることで、歌い方を工夫していけるように、発問を工夫していく。 ・鍵盤ハーモニカでは、指使いやタンギングが確実に身に付くよう、スモールステップで指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・けん盤ハーモニカでは、学習した音を使って簡単な音遊びをする活動を取り入れていく。 ・様々な楽器を使い、拍の流れやリズムに親しみ、楽しくリズム遊びを行えるようにする。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞では、身体表現を取り入れることで児童は楽しく活動に取り組むことができる。曲の雰囲気や音楽の仕組みに気付いて音楽を聴くことには苦手をもつ児童がいる。 ・響きのある歌声で歌ったり、鍵盤ハーモニカを指遣いやタンギングに気をつけながら演奏したりすることができる。思いをもって器楽の表現をすることに苦手をもつ児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞では、言語化の際に言葉のヒントを提示しそれから常に選択できるようにする。 ・歌唱では、友達と声を合わせて歌うことを楽しめるように、実態に合わせた曲を用いて自分や友達の声をよく聴きながら歌うよう積極的に声をかけながら指導を行う。 ・器楽では、友達の音を聴きながら演奏ができるよう指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今月の歌やわらべうたなど常時活動に取り入れることで歌うことに親しみをもてるようにする。 ・鍵盤ハーモニカの学習では、簡単に取り組める曲から少し複雑な曲まで段階的に用意する。また、互いに教え合ったり、一緒に音を合わせたり、友達と関わりながら楽しく練習に取り組めるようにしていく。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞では、身体表現を取り入れることで児童は楽しく活動に取り組むことができた。音楽を聴いて気付いたことや感じ取ったことを言葉や文で言語化することに苦手をもつ児童がいる。 ・響きのある歌声で歌うことに苦手をもつ児童が多い。 ・姿勢や息遣いなどに気を付けてリコーダーを演奏する活動には前向きに取り組む様子が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞では、様々な表現活動と関連させて学習し、感じ取ったことを言葉で伝える場面を取り入れる。 ・歌唱では、自声から響きのある歌声にシフトできるように、実態に合わせた曲を用いて自分や友達の声をよく聴きながら歌うよう積極的に声をかけながら指導を行う。 ・リコーダーの学習では、実態に合わせた曲を用いて導入期の指導を丁寧に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今月の歌やリクエストコーナー「今日の歌」などを常時活動として取り入れることで、音楽に親しみをもって意欲的に音楽活動に取り組めるようにする。 ・リコーダーの学習では、互いに教え合ったり、一緒に音を合わせたり、友達と関わりながら楽しく練習に取り組めるようにしていく。
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞では、身体表現を取り入れることで児童は楽しく活動に取り組むことができた。音楽を聴いて気付いたことや感じ取ったことを言葉や文で言語化することに苦手をもつ児童がいる。 ・響きのある歌声で歌ったり、息遣いやタンギングに気を付けてリコーダーを演奏することができている。 ・歌詞の内容や強弱、速さ、音楽の仕組みなどによる曲想を感じ取って聞いたり、自分なりに演奏を工夫したりする活動には苦手をもつ児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞では、様々な表現活動と関連させて学習し、感じ取ったことを言葉で伝える場面を取り入れる。 ・歌唱やリコーダーの学習では、二部合唱や二重奏の曲を用いてお互いの歌声や音色を聴き合いながら歌ったり演奏したりできるようにする。 ・歌唱や器楽では、音楽の仕組みと曲想を結びつけたり、どのように表現したいか思いをもたせる場面を適宜取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今月の歌やリクエストコーナー「今日の歌」などを常時活動として取り入れることで、音楽に親しみをもって意欲的に音楽活動に取り組めるようにする。 ・器楽では、グループ学習やペア学習などで互いに高め合える活動を取り入れる。
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを活かして自分の思いや意図をもって表現したり、曲想と音楽の仕組みの関わりに気付いて聴いたりする活動に苦手をもつ児童がいる。 ・音の重なりなどの音楽のしくみや曲想を感じ取って聴いたり、音楽の仕組みに気を付けて演奏を工夫したりすることが難しい児童がいる。 ・多様な音楽の仕組みを理解し、感じ取ったことを言葉で表すことが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現活動では、思いや意図をもち、表現につなげることができるような基礎的な技能を高めていく。 ・様々な教材を通して、音楽から感じ取ったことを生かして自分の思いや意図をもち、表現を工夫できるよう、題材構成を工夫する。 ・多様な音楽の魅力に気付き、自分たちの表現に生かしたり、友達と伝え合ったりできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今月の歌やリクエストコーナー「今日の歌」などを常時活動として取り入れることで、音楽に親しみをもって意欲的に音楽活動に取り組めるようにする。 ・器楽では、グループ学習やペア学習などで互いに高め合える活動を取り入れる。
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを活かして自分の思いや意図をもって表現したり、曲想と音楽の仕組みの関わりに気付いて聴いたりする活動に意欲的に取り組むことができる。 ・音の重なりなどの音楽のしくみや曲想を感じ取って聴いたり、音楽の仕組みに気を付けて演奏を工夫したりすることが難しい児童がいる。 ・多様な音楽の仕組みを理解し、感じ取ったことを言葉で表すことが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現活動では、基礎的な技能を高め、自分たちの思いや意図を表現に生かして合唱したり、合奏したりすることができるよう、題材構成を工夫する。 ・多様な音楽の魅力に気付き、自分たちの表現に生かしたり、友達と伝えあったりできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今月の歌やリクエストコーナー「今日の歌」などを常時活動として取り入れることで、音楽に親しみをもって意欲的に音楽活動に取り組めるようにする。 ・器楽では、グループ学習やペア学習などで互いに高め合える活動を取り入れる。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善

練馬区立橋戸小学校

教科(図工)

	指導方法の課題分析 (学習における児童の実態等)	具体的な授業改善策	補足的・発展的な学習指導計画
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・大変意欲があり、思いのままに楽しく造形活動をしている児童が多い。 ・造形遊びや工作、粘土で表すことには参加できるが、絵に表す活動には表現活動に参加できない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入での道具の使い方など、丁寧に指導しながら関心をもたせる。 ・時間的なゆとりをとって、絵の具など新しい材料をきっかけにしたり、木っ端などに絵の具を塗るなど、自然と表したくなるよう配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初めての道具では、安全な扱い方の指導とともに、できることを深めていけるよう、材料や用具に親しむ時間を十分に確保し、ケガのないようにしていく。 ・自分や友達の表し方の面白さに気付き、一緒に楽しめるようにする。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・大変意欲があり、思いのままに楽しく活動をしている。 ・はさみやのりを使った活動では、技能面においてやや体験不足が目立つところがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入での道具の使い方を丁寧に指導する。 ・時間的なゆとりをとって、学習した技法等を自分なりに生かせるようにしていく。 ・様々な表現があることを意識させるため、友達の作品を鑑賞しあう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初めての道具では、安全を第一に練習用の材料や時間を十分に確保し、ケガのないようにしていく。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でどんどん表し方を試していける児童が多い。 ・スムーズに手を動かすことが難しい児童が見られ、意欲的に活動しているものの、困っている様子も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな用具や材料に出会わせ、どんどん発想を広げて活動できるよう促す。 ・自分なりの表し方のよさや表し方の面白さ、感性のよさを励まし、頑張っているところに共感する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や友達のよいところを見つけたり知らせたりする場を数多く設定する。
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ・大変意欲的に自分から進んで工夫して活動している児童が多い。 ・何を表現したらいいか、なかなか発想できない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな材料や用具との出合い方を工夫し、発想のきっかけとなるようにしていく。 ・導入の段階で、どんなことを表現したいか、具体的な発言を促し共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の始めに自分や友達の作品のよいところを共有し、意欲を高める。 ・材料や用具を選ぶ際に自然と交流できるようにして、友達の作品からヒントが得られるようにする。
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく意欲的に活動している ・さらに表現を深めようと、いろいろな表し方を試して表現していける児童も多い。 ・自分なりの表し方に自信が持てない児童も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な材料や用具と出会える題材を開発し、経験を増やしていく。 ・児童一人一人の思いが表現できるよう、面白いところ、困っているところなどに気づいて共感したり、励ましたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の作品のよさや面白さを感じ、自分の作品に生かしていけるよう、場を多くつくり、表現の幅を広げさせる。 ・途中で新たな材料を提示し、イメージの広がりを促す。
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの表し方を追求していける児童が少なからずいる。 ・自分の作品に自信がもてない児童が見られ、追求を深めていけない様子も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料や用具の提示の仕方や導入の場面を工夫する。 ・参考作品を提示したり、様々な材料に親しむ時間を十分とり、自分の表現方法を見つけられようにしていく。 ・個々のよいところを具体的に取り上げ、認め励ましていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの表し方の面白さを、生かせるよう、既習の材料、用具などを選んで表現できるよう環境を整備する。 ・自分で計画、実践するための時間を与えるなどして、表現の楽しさを感じられるようにする。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善

練馬区立橋戸小学校

教科(家庭科)

	指導方法の課題分析 (学習における児童の実態等)	具体的な授業改善策	補足的・発展的な学習指導計画
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> 家庭生活に必要な仕事を認識させ、体験学習も重ねた。 学習した内容についての理解は見られるが、家庭での実践になかなか結び付かない。 	<ul style="list-style-type: none"> 意図的に自分の生活を振り返る機会を作り、様々な事例を紹介していく。 2、3学期はミシンの扱いや炊飯などの調理実習を初めて体験する児童も多いので、実習を大切に実践に結びつくよう働きかけていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ミシンでは扱い方の指導にとどまらず、展覧会作品の製作にまでつなげる。 調理や裁縫の学習で習得した技能を生かして取り組める実習や作品製作を行い、児童の興味関心に応えるとともに、さらなる技能向上を図ったり、興味を広げたりする。 長期休暇や日頃から、裁縫や調理など家でできることを取り組めるように、児童や保護者に授業や保護者会などで呼びかける。
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> どの単元においても、互いに情報を交換しながら積極的に取り組むことができた。 調理実習では、技能の個人差が大きく、特に先を見通して手順よく作業する力に課題が見られる。 学習した内容についての理解は見られるが、家庭での実践になかなか結びつけられない。 	<ul style="list-style-type: none"> 調理実習では、自分たちで計画を立てさせ、主体的に活動できるように働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 普段から家の仕事をするように児童や保護者に働きかける。 習得した技能を生かして取り組める実習や作品製作を行い、児童の興味関心に応えるとともに、さらなる技能向上を図ったり、興味を広げたりする。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善

練馬区立橋戸小学校

教科(体育)

	指導方法の課題分析 (学習における児童の実態等)	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 運動することを楽しんで、活動に参加していた。苦手なことにも挑戦しようとする姿が多く見られた。 個々の工夫や気付きを、児童同士で伝え合うことがあまりできなかった。 全体のためでは伝えているが、自分のためをもち、それに向かって運動を工夫する活動が少なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ペアやグループでの活動の時間を確保し、気付いたことを伝え合えるようにしていく。 個人カード等を活用し個々の伸びやふり返りを分かりやすいものにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 縄跳びカードや、マラソンカードなどで、個に応じた体力づくりをめざす。 児童一人一人に課題をもたせ、友達同士で教え合ったり見合ったりできるような場面を設定する。 がんばったことをみんなの前で発表する機会を多く設定する。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に、楽しんで運動する児童が多かった。 自分のためをもち、それに向かって運動を工夫する活動が不十分だった。 個々の工夫や気付きを伝え合う学習では、個人差が見られた。 基礎的な技能を身に付けたり、伸ばしたりすることが不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のためをもち、めあてが達成できるような場の設定を工夫し、振り返りの時間を確保する。 ペアやグループでの活動の時間を多くとって、気付いたことを伝え合うことができるようにしていく。 体づくり運動などを通して、身体の使い方を身に付けられるよう、工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 縄跳びカード、鉄棒カード、マラソンカードなどで、個に応じた体力づくりを目指す。 休み時間や放課後などを利用して、継続的に運動できるように、働きかける。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> どの領域(内容)にも意欲を示す。 ボールを投げる、蹴るなどの運動の個人差が大きい。 自分なりのめあてをもつこと、活動を工夫することは不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードを工夫して、児童が課題をもって取り組めるようにする。練習方法や個人の目標がよく分かるカードにする。 体を動かすことの楽しさを味わうことができるように、活動を工夫する。 ゲームのときは、作戦タイム等を取り入れ、工夫のしかたを話し合い、互いに学び高め合えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 縄跳びカードや、マラソンカードなどで、個に応じた体力づくりをめざす。 休み時間や放課後などを利用した、自分のめあてに基づいた練習、遊びができるように、働きかける。
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に意欲をもって取り組む児童は多いが、苦手な分野では自信が極端に少ない児童がいる。 個人のめあてを適切に設定する指導が必要である。 技能面での能力差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画を基としながら、実態に即した運用をする。 学習カードを使用したり、よいめあてを共有したりして、児童が適切なめあてをもてるようにする。 グループ学習を取り入れて、個々の技能面の拡充も図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 縄跳びカードや、マラソンカードなどを使いながら、体育の授業で行った運動を可能な範囲で日常化できるようにする。 休み時間での外遊びを推奨し、運動のよさを実感できるようにする。
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に意欲は高い。 児童一人ひとりがめあてをもって学習する機会が足りなかった。 技能面での能力差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動量を十分確保した授業展開を行う。 めあてをはっきりもち、めあてが達成できるような場の設定を図るとともに、振り返りの時間を確保する。 ペア学習やグループ学習を取り入れて、思考力を高め、個々の技能面の拡充も図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 縄跳びカードや、マラソンカードなどで、個に応じた体力づくりを目指す。 児童同士が技能を見せ合ったり、学び合いの場を意図的に作ったりすることで、思考力や技能を伸ばす。
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> 意欲や関心をもって体を動かすことを楽しみながら授業に取り組んでいる。 自分で課題をもって取り組めるような授業の設定が不足している。 技能面での能力差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が明確な課題をもてるような授業の流れと、場の設定をする。 児童一人一人に応じた学習の場を作り、個人の課題を達成できるように支援する。 ICTを活用し自己の動きを可視化する。 学び合う活動を増やし、関わり合う喜びを感じさせ、運動する意欲を喚起する。 	<ul style="list-style-type: none"> 縄跳びカードや、マラソンカードなどで、個に応じた体力づくりを目指す。 関わり合いながら学ぶ場を授業の中に意図的に作っていく。